

## 教員養成課程におけるダンス授業のあり方に関する一考察 — T大学の「ダンス実技」の授業を事例に—

朴 京眞\*

### A study on ideal way about dance lesson in teacher training courses

#### A case study of “dance lesson of a university”

PARK Kyungjin \*

**Key words:** 教員養成課程、ダンス授業、ダンス指導力

#### 1. はじめに

平成20年(2008年)の学習指導要領では、戦後初めて中学校1・2学年においてダンスが必修化された。これは、ダンス教育の量的な拡大とともに、「ダンス固有の学びの経験の広がり」<sup>1)</sup>などの質的な拡大が期待できる改訂である。ダンス教育の質的拡大を図るためには、教育内容の体系化・明確化、教育環境の整備、教員のダンス指導力の向上などの対応が必要事項として挙げられる。実際に現学習指導要領では、保健体育科改訂による改善点として、教育内容の体系化・明確化が図られた<sup>5)</sup>。これに伴い、ダンス領域においても指導内容が具体的かつ詳細に示されたことによって、教師の理解が促進され、指導にヒントが与えられるように改善された<sup>11)</sup>。しかし、それに関わらず、多くの体育教師はダンス領域の指導について不安を感じており、指導力不足を痛感している。中村<sup>8)</sup>は、ダンスの男女必修化に対する否定的評価の理由として「生徒の適性の問題より指導者不足、指導力不足で対応できないことなど指導者側の問題からの否定的評価が多かった」と報告している。つまり、ダンス教育の量的・質的拡大に伴って、なによりも教員のダンス指導力を向上させることが求められていると考えられる。

教員のダンス指導力の向上は、教員養成大学における教育や、現職教員を対象とする講習会や研修プログラムなどを通して図ることができる。近年の先行研究では、熟練したダンス指導者や現職教員の指導法に関する研究<sup>2, 12-14)</sup>が多く行われているが、最

近は教員養成課程に注目した研究報告<sup>4)</sup>も増加している。日本体育科教育学会第19大会のプロジェクト研究報告<sup>9)</sup>においても、ダンス授業改善のためには現職教員対象の研修の充実が必要であることとともに、「大学の教員養成段階におけるダンス授業の改善を行い、将来の教師のたまご達にダンスの適切な指導法を提示することにより、中長期的に教育現場の授業改善が図られるだろう」とあるように、教員養成課程におけるダンス授業の重要性が確認された。

平成20年度に告示された現行学習指導要領は平成24年度より完全実施されたが、現在、教員養成課程において保健体育の教員を希望している学生ら(特に男子)には、中・高校においてダンス授業を履修してこなかった者が多いと思われる。ダンス経験がない学生は、ダンスに対して抵抗感を抱いている場合が多く、経験のないまま保健体育の教員になった場合、ダンス指導から逃げてしまうか、ビデオ映像のダンスを模倣させるなどの安易な教え方で指導を行ってしまう可能性が高い。このように、ダンス指導の実態と、現行学習指導要領に示されているダンス領域の目標および指導内容との間には隔たりがあると考えられる。文部科学省<sup>7)</sup>は、「国の示した学習指導要領に従って、教師が採用当初から大きな支障が生じることなく指導実践できるようにすることが教員養成課程の役割であり、教師として最小限必要な指導方法を学生に身に付けさせることが非常に重要である」と述べているが、現在

\* 筑波大学体育系  
Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba

教員志望の学生らは教員養成の段階で、学習指導要領におけるダンス領域の指導内容について十分に理解し経験した上で、現場で指導できる基礎的な指導力を身に付けているのかという疑問が生じる。教員養成課程での模擬授業を通した指導の経験も大事であるが、その前に、学生らがダンスの楽しさを経験し、ダンスに対する肯定的なイメージを持つことによって、ダンス指導に対する関心を深め、積極的にダンス指導に関わるようになるような授業が教員養成課程において特に求められていると、筆者は感じている。

そこで、本研究では、教員養成課程におけるT大学の「ダンス実技」授業の事例を概観するとともに、学生のダンス授業の受け止め方について検討することで、教員養成課程におけるダンス授業のあり方を見出すことを目的とした。

## 2. 方法

### 2.1 対象

ダンス授業の事例には、T大学の「ダンス実技」の授業を選定した。授業の指導者はT大学の教授で、当教授は平成10年・20年学習指導要領の「表現運動・ダンス」領域の作成協力者でもある。さらに、多数の全国規模のダンス講習会において講師を務めており、熟練指導者であるといえる。今回、研究対象とした授業は、2014年4月～6月に行われた10回分（1回75分）である。これは選択必修科目であり、学生はダンスまたは体操を選択できる。全20回の授業が行われるが、ダンスも体操も重要な領域であり、経験することが求められるため、20回のうち5回は選択しなかった領域の授業を受けることになっている（すなわち、ダンス選択者も5回は体操の授業を受ける）。また、残り15回のうち5回は担当指導者が異なるため、今回の対象からは除外することにした。授業を受講した学生は男子39名、女子26名の計65名であった。

### 2.2 データ収集と分析

対象となるダンス授業をビデオカメラで撮影し、毎回の授業内容および指導言語を記録した。授業内容については10回分の授業の流れをまとめ、指導言語と照らし合わせて検討し、内容選定意図および指導のポイントについて整理した。

学生らには、まず、授業前に「ダンスの経験や、ダンスおよびダンス指導についてどのように感じているか」について履修者シートに記述してもらった。また、10回の授業を修了後、印象に残った内容と感想、ダンスおよびダンス指導について認識の

変化について、期末レポートで記述してもらった。これらの資料は学生に自筆で作成してもらったため、回収後、原文のままパソコンに入力し、テキストデータ化された。テキストデータは、テキストマイニングの分析プログラムである Tiny Text Miner（以下、TTM）<sup>3)</sup> を用いて分析された。TTMは、テキストデータから特定の語や表現の出現頻度を集計できるプログラムであり、出力ファイルは7件<sup>注1)</sup>であった。その中から今回は、ttm4ファイルの「語×タグのクロス集計（出現件数）」と ttm6ファイルの「テキスト×語のクロス集計（出現頻度）」を用いて分析を行った。

## 3. 結果と考察

### 3.1 授業前：履修者シートより

#### (1) ダンス経験および教員志望の有無

授業前に、履修者シートを用いて、ダンス経験および教員志望の有無について調査した。まず、ダンス経験については、ダンス経験がある学生が30名（46.2%）、ない学生が35名（53.8%）であった。ダンス経験がない学生の性別内訳は男子学生が29名（82.9%）、女子学生が6名（17.1%）であり、男子学生の方が女子学生に比べてダンス経験がない割合が高かった。これは、平成元年の学習指導要領から、ダンス領域は「女子に限る」領域から「男女共修」になり、ダンスは男女の区分なく学ぶべき重要な内容として認められたが<sup>10)</sup>、前学習指導要領までは、中学校からは「武道とダンス」の中から選択して履修することとなっていたため、暗黙的に男子学生は武道を、女子学生はダンスを選択してきたことが、今回の結果に反映されたものと推測される。

次に、教員志望の有無については、保健体育の教員を志望する学生が24名（36.9%）、まだ決めていない学生が36名（55.4%）、志望しない学生が5名（7.7%）であった。まだ決めていない学生も今後保健体育の教員を志望する可能性があることから、60名（92.3%）の学生が今後保健体育の教員になる可能性があるといえる。この60名の中でダンス経験の有無について調査したところ、33名（55.0%）の学生がダンス経験はないと答えた。つまり、今後保健体育の教員になる可能性のある学生のうち、ダンス経験のない学生が半数を上回っていることになる。

#### (2) ダンスおよびダンス指導についてどのように感じているか

授業前に、「ダンスについてどのように感じているか」について述べてもらったテキストから、形

容詞を抽出した結果を表1に示した。ttm4 ファイルの「語×タグのクロス集計」では、〈楽しい〉、〈難しい〉、〈恥ずかしい〉の順で出現件数が多かった（〈くない〉はテキストについて検討した結果、直接関係した記述ではなかったため除外した）。ダンスそのものに対しては〈難しい〉より〈楽しい〉と感じている学生が多い結果であったが、テキストと語のクロス集計の結果からは、【難しそうだけど楽しそう】、【楽しそうだけど難しそう】、【体を使って表現するダンスは難しいと思うが、それが楽しさでもある】、【表現が難しい、リズムをとるのが難しい、みんなと同じことを共有できるところが楽しい】のように〈楽しい〉と〈難しい〉を同時に感じている記述がみられた。

表1 「ダンスについてどのように感じているか」  
(ttm4：形容詞)

語:形容詞	女子	男子
楽しい	6	11
難しい	4	10
ない	2	6
恥ずかしい(はずかしい)	4	2
大きい	2	1
凄い(すごい)	3	1
上手い	1	1
かっこいい	0	1
美しい	1	0
良い	1	0
興味深い	1	0
多い	1	0
激しい	0	1
面白い	1	0
細かい	0	1
やわらかい	0	1
明るい	0	1
すばらしい	0	1

一方、「ダンス指導についてどのように感じていますか」について述べてもらったテキストから形容詞を抽出した結果を表2に示した。「語×タグのクロス集計」の結果からは、〈難しい〉、〈楽しい〉、〈恥ずかしい〉の順で出現件数が多かった（〈くない〉、〈よい〉はテキストについて検討した結果、直接関係した記述ではなかったため除外した）。上述のように、ダンスそのものについてどのように感じているかについては〈楽しい〉が多かったが、ダンス指導については〈難しい〉が多くみられた。〈難しい〉については、主に【自分ができないところが多いので難しいイメージ】、【自分自身にダンス経験がほとんどないので、どう指導すれば楽しみながらうまくしてもらえるか分からない。難しい】などのように、自分が踊れないから難しいと感じて

いる記述と、【正解がないものなので難しい】のように、ダンスの特性を理由として指導の難しさについて訴える記述がみられた。

さらに、テキストと語のクロス集計を検討した結果、【楽しい授業を作れそう】のように〈楽しい〉をポジティブ表現において用いている場合もあったが、【課題を与え、「やらせる」のはあまりダンスでは効果的でないと考える。ある程度の「自由」の中で、「楽しさ」を感じさせることが重要であると思う】、【自分（指導者）が楽しくやらないと子どもたちがついてこない】などのように、生徒を楽しませることや教員である自分を楽しく見せることについての義務感、言い換えれば〈楽しい〉ということに対して負担を感じている様子が見えがえた。また、【楽しいと思えないダンス・表現の指導はとても難しいと思う】のようにネガティブに捉えている記述もみられた。これらから、ダンス指導については〈楽しい〉の出現件数が多かったものの、〈難しい〉ということを経験的に表現している記述も多く、全体的にはダンス指導については難しいと感じている傾向があると考えられる。

表2 「ダンス指導についてどのように感じているか」  
(ttm4：形容詞)

語:形容詞	女子	男子
難しい	7	11
楽しい	6	10
ない	2	6
良い(いい、よい)	1	4
恥ずかしい	0	2
うまい	1	1
すごい	1	1
深い	0	1
大きい	1	0
悪い	0	1
多い	1	0
上手い	0	1
面白い	0	1
手っとり早い	1	0
細かい	0	1
強い	1	0
明るい	0	1

### 3.2 ダンス授業の概観と指導のポイント

#### (1) 授業の概観

ダンス授業の流れを表3に示した。授業内容は大きく、「体ほぐしと開脚ストレッチ」、「現代的なリズムのダンス（リズム系）と創作ダンス（創作系）のベース活動」、「現代的なリズムのダンス」、「創作ダンス」の4つに分けられる。ダンス領域の主要内容である3つのダンスに「フォークダンス」は取り上げられていなかった。それについて担当教員が

表3 ダンス授業の流れ

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
授業の概要	ダンス・身体表現の基礎的な理論を理解し、リズムダンス・創作ダンスの学習を中心に基礎的な技能を取得すると共に、指導法についても学習する。									
10	授業のガイダンス	前回の授業の振り返り・今日の流れ	前回の授業の振り返り・今日の流れ	前回の授業の振り返り・今日の流れ	前回の授業の振り返り・今日の流れ	前回の授業の振り返り・今日の流れ	前回の授業の振り返り・今日の流れ	前回の授業の振り返り・今日の流れ	前回の授業の振り返り・今日の流れ	前回の授業の振り返り・今日の流れ
20	体ほくし(経路)	体ほくし(寝てマツカージ)	体ほくし(座って)	体ほくし(骨盤の歪み)	体ほくし(自由選択)	体ほくし(自由選択) +2人でゆらゆら(脱力)	体ほくし(自由選択)	体ほくし(自由選択)	体ほくし(自由選択)	体ほくし(自由選択)
30	開脚ストレッチ	開脚ストレッチ	開脚ストレッチ	開脚ストレッチ	開脚ストレッチ	開脚ストレッチ	開脚ストレッチ	開脚ストレッチ	開脚ストレッチ	開脚ストレッチ
40	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る
50	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る	2人組でリズムに乗る
60	ワハダンス(練習)	ワハダンス(練習)	ワハダンス(練習)	ワハダンス(練習)	ワハダンス(練習)	ワハダンス(練習)	ワハダンス(練習)	ワハダンス(練習)	ワハダンス(練習)	ワハダンス(練習)
70	サンバのフレース	サンバのフレース	サンバのフレース	サンバのフレース	サンバのフレース	サンバのフレース	サンバのフレース	サンバのフレース	サンバのフレース	サンバのフレース
75	まとめ・感想文	まとめ・感想文	まとめ・感想文	まとめ・感想文	まとめ・感想文	まとめ・感想文	まとめ・感想文	まとめ・感想文	まとめ・感想文	まとめ・感想文

授業の振り返り・今日の流れ

風になりたいの練習

リズムダンス

リズム系と表現系のダンス活動

体ほくしと開脚ストレッチ

ら、「2年前までは『フォークダンス』の授業があり、そこでは外国のフォークダンスとその他のダンスである社交ダンスを取り上げたが、(3学期制から2学期制へ)カリキュラムが変わり授業がなくなってしまった」という説明を受けた。以下、授業内容と指導言語の記録より、4つの活動における内容選定意図および指導のポイントについて検討した。

#### ① 体ほぐしと開脚ストレッチ

ダンス授業のはじめは、踊ることが恥ずかしい、男女ペアになれないなど、授業に消極的な学生が多くみられることから、指導者は体ほぐしと開脚ストレッチを通して「ダンスのスイッチを入れること」を大事にしている様子だった。さらに、最初の授業の導入部では少し長めに時間をかけてゆっくり行い、授業が回を重ねるに連れて時間を減らしていた。基本的に男女ペアの2人組で行われ、軽擦を通して触れ合いながらコミュニケーションをとることがメイン内容であったが、それだけではなく、そこで養われたコミュニケーションがその後の2人組のダンスに自然につながることも意図されていた。また、ダンスを踊る際に大事な骨盤や体幹部を意識するように指導が行われていた。

#### ② リズム系と創作系のベース活動

初回の授業から3回目の授業までは、リズム系と創作系のベース活動がメイン活動として取り上げられていた。リズム系と創作系のベース活動は、リズムに乗りながら自由に動く(自分たちで再構成して踊る)ことができる内容であった。つまり、リズムに乗ることは自然に現代的なリズムのダンスにつながり、自由に動くことは創作ダンスにつながることを意図して構成されていた。

#### ③ 現代的なリズムのダンス

現代的なリズムのダンスでは、学習指導要領に示されている「ロック」、「サンバ」、「ヒップホップ」の3つのリズムが取り上げられていた。

##### a) ロック

リズム系と創作系のベース活動においては、リズムとして一番乗りやすいロックが用いられており、現代的なリズムのダンスへとスムーズに発展させられるようになっていた。体ほぐしからの続きで、2人組で活動し、即座に真似をすること、弾むこと、体幹部(へそ)でリズムに乗ることの3つが重視されていた。また、動きを止めないこと(連続して踊ること)も強調されていた。その理由としては、まずは抵抗なく一曲踊れるようにするためであり、初

心者でもどんな抵抗がある人でもいつの間にか自然に踊れるようになることを経験させることが意図されていたとみられる。

さらに、まずは指導者がリードし、その後自然に自分たちでリーダーを変えながら踊れるようにすることで、動きの材料をどんどん増やしていくことが目標となっていた。特に、リーダーになる人は相手に声をかけて指示することで指導力を高める効果も期待されていた。ロックでは指導者が作った「ワハハダンス」の定型のダンスも用いられていたが、このダンスではペアを次々と変えていったり、すぐ覚えて一曲踊ったりすることで楽しく踊れる内容となっていた。

##### b) サンバ

サンバでは、32呼間の簡単な振りを覚えて踊ることをもとに、アフタービートのリズムに乗ることや点で動くことなどが強調されていた。また、振りを覚えるときは同じ向きで行うが、その後すぐ2人組になって、相手に対応して踊る形式をとっていた。

さらに、サンバの振りを使い、振りはそのままリズムだけをロックや早いサンバ、ヒップホップに変えて踊ることで、リズムの乗り方の違いを経験できる内容であった。

##### c) ヒップホップ

ヒップホップも簡単な振りを覚えて、アップとダウンの縦乗りのリズムに乗って踊る内容であったが、振りの最後にバトルのシーンを入れて、そのパートは自由にバトルを表現することで、相手との掛け合いを楽しめる内容に構成されていた。

#### ④ 創作ダンス

10回の授業の中では、創作ダンスが最も多く取り上げられていた。リズム系と創作系のベース活動から素早い動きやストップモーション、スローモーションを中心に取り上げ、リズムを崩すことでメリハリのある表現になるようにし、自然に表現系のダンスに発展させられるように構成されていた。

創作ダンスでも、常に2人組の活動が中心であったが、人数構成を変更した内容もみられた。さらに、体が棒状態にならないように、点で動く、ひねる、ターンを入れる、誇張する、なりきる、動きのスピードや空間を崩すなど、ダンス特有の動きについて毎回の授業で強調されていた。

創作ダンスには、多様な題材とテーマがあるが、その中でも本授業では、対決、タッチ・アンド・エスケープ、踊る大捜査線の即興作品、ワリバシを使った表現、新聞紙を使った表現、グループ作品発

表が取り上げられていた。

2人組で向き合う対決の表現から、2人組で列になって踊るタッチ・アンド・エスケープ、対決とタッチ・アンド・エスケープを活用しながらまとまり感を味わえる「踊る大捜査線」の即興作品（ひと流れの動きからひとまとまりの表現へ）、そして、今までのダイナミックな活動とは対照的にデリケートな活動であるワリバシを使った表現、また今まで学習してきたことをフルに活用できる新聞紙による表現、そして最後にグループ作品発表の順で授業は進められていた。授業の題材を取り上げる順番は、指導者がもっとも重要視しているところで、前の活動とのつながりに配慮したり、逆に今までとは正反対の体験ができるよう考慮したりして構成されていた。各題材・テーマを取り上げた意図を指導言語から抽出し、授業の様子と一緒に次の図1に示した。

### 3.3 授業後：期末レポートより

#### (1) 印象に残っている内容

全授業修了後の期末レポートで、授業内容の中から印象に残っているものを各人3つ以上5つまで選択し、その感想を書いてもらった。図2に、その結果を示した。リズム系のダンス、体ほぐし、新聞紙を使った表現、ワリバシを使った表現の順に、多く印象に残っていると回答された。以下は、これら

4つの内容に対する感想についてテキストマイニングを用いて検討したものである。

#### ① 毎回のいろいろな体ほぐし（表4）

これは2人組の活動が中心であったことから、〈人〉、〈自分〉、〈ペア〉などについての記述が多くみられた。また、2人組の活動を通して〈コミュニケーション〉がとれるようになったことから次回の活動にもつながったと述べた者もいた。〈最初〉という単語は、【最初は2人組になることが上手くできなかったが…】という記述のように、授業修了後に最初と比べてその変化について述べる際に多く用いられていた。

#### ② リズム系のダンス（表5）

リズム系のダンスでは、同じ振りでも異なるリズムの取り方で〈楽しむ〉ことができたことについての記述が最も多くみられた。また、異なるリズムに乗ることが【難しいところでもあり、楽しいところでもある】という記述もみられた。現代的なリズムに乗ること自体は難しいが、最もよく接しているリズムや曲であり、興味を持っていることから積極的に取り組むことができ、印象に残ったと推測される。

また、1回目の授業で取り上げられた「ワハハダ



図1 創作ダンスの授業内容と指導のポイント

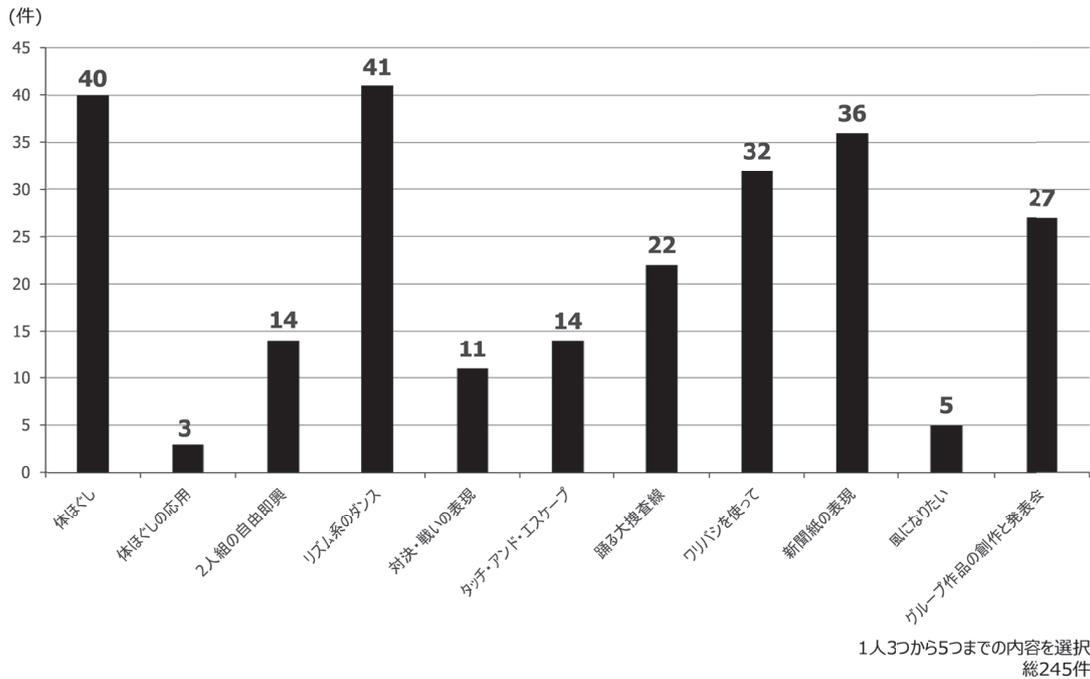


図2 印象に残っている内容

表4 毎回のいろいろな体ほぐし (ttm4: 名詞)

語: 名詞	出現件数
体	36
人	15
いろいろ	15
自分	13
毎時	14
ダンス	12
授業	13
コミュニケーション	11
最初	8
ペア	7
これ	6
身体	6
相手	5
パートナー	5
ストレッチ	5
運動	5
それ	5
毎回	5
筋肉	5
男女	5

\*出現件数5件以上

ダンス」については、【ダンス授業が始まって間もなく踊ったが、リズムよく曲に乗って踊ることができたことが非常に楽しかった】と述べられていた。10回にわたるダンス授業の導入の役割を果たす1回目の授業において、学生の多くが難しいと感じていたダンスに対するイメージを楽しいものに変えることは、その後授業を進めていく上で重要であり、特

表5 リズム系のダンス (ttm4)

語	出現件数
ダンス	19
踊る	18
リズム	18
楽しい	16
ヒップホップ	13
する	12
サンバ	12
できる	11
思う	11
なる	11
体	11
出来る	10
ロック	10
動き	10
感じる	9
ワハハ	9
授業	8
自分	7
ある	7
やる	7
人	6
変わる	6
いう	6
表現	6
曲	6
踊れる	6
違う	5
一番	5

\*出現件数5件以上

に本授業において取り上げられた「ワハハダンス」はその役割を十分に果たしていたと思われる。

### ③ 新聞紙を使った表現 (表6)

新聞紙を使った表現では、新聞紙に〈なる〉、〈なりきる〉ことについて、【想像力を十分に発揮させ、普段しないような動きが生まれたりしておもしろかった】、【自らの表現力を試されている気分だった】、【とうてい無理なように思えるけど、「あ、そういう動きがあったか」といった発想が生まれたり、「こういうのはどうだろう」と考えてみたりすることが多くあった】という感想がみられた。新聞紙になりきることは難しいが、新聞紙1枚で考えられなかった新しい動きが生まれたことやダンスを楽しむことができたことに驚いている様子がうかがえた。このような感想から、多様な表現を経験させた後で新聞紙を使った表現を取り上げることで、さらに豊富な表現が生まれることをねらった指導者の意図がうまく受け入れられたことが確認できる。

表6 新聞紙を使った表現 (ttm4)

語	出現件数
新聞紙	32
する	26
表現	23
なる	19
動き	18
思う	16
使う	15
ダンス	13
できる	13
楽しい	12
ある	12
自分	9
難しい	8
ない	8
感じる	7
なりきる	6
破く	6
面白い	6
行う	6
非常	6
動かす	5
授業	5
考える	5
破る	5
驚く	5
生まれる	5
様々	5
作る	5

\*出現件数5件以上

### ④ ワリバシを使った表現 (表7)

ワリバシを使った表現は、目を閉じて指と指の間にワリバシを挟んだまま表現する内容であり、【一番衝撃的だった。ダンスじゃないじゃん最初は思った】という記述からもわかるように、周りにあるものを使って表現するだけでダンスになるということを不思議に思う学生が多く、記憶に残ったものとして挙げられたと推察される。

また、授業では主にリズムに乗って弾むことや、対決などダイナミックな表現が中心に取り上げられたが、ワリバシを使った表現では、デリケートに相手を感じながら動くことで、【ワリバシ1本でみんなの動きが繊細になり、神秘的だった】と感じている様子が見られた。また、【非常に繊細な動きの中で相手の力の加減を感じながらも、自分も割り箸を通して動きを伝える感覚が非常に不思議だったし、すごく「相手を感じよう」という意識が自然と発生した表現だった】という記述からわかるように、積極的に人と関わろうとする意識を促す内容であったと考えられる。

表7 ワリバシを使った表現 (ttm4)

語	出現件数
割り箸	20
する	18
相手	17
感じる	16
動き	16
使う	15
なる	13
目	10
体	10
ダンス	9
思う	9
表現	9
自分	8
できる	8
美しい	7
ある	7
動く	7
見る	7
不思議	6
つぶる	6
やる	6
感覚	6
落とす	5
意識	5
集中	5
授業	5
行う	5
自然	5

\*出現件数5件以上

(2) ダンスおよびダンス指導に対する認識の変化  
(表8)

本授業を通してダンスやダンス指導に対する意識はどのように変わったかについて、学生に記述してもらった。テキストデータを分析した結果、〈楽しい〉が最も多く記述されていた。その次に〈恥ずかしい〉、〈難しい〉の順であった。しかし、元のテキストを調査したところ、【今までダンスはあまり好きではなく、ただただ恥ずかしいだけだったけど、今回のダンスの授業で私のダンスの概念は変わった。ダンスは楽しい!!】、【ダンスは思い切ることが最初できなく、難しいものだと思っていたが、パートナーと、リズムに乗って踊ることは、気分も身体も軽くなり、楽しいものであると感じた】という記述のように、ダンス授業の前は〈恥ずかしい〉、〈難しい〉と感じていたが、授業後は〈楽しい〉と感じるように認識が変化の様子がうかがえた。つまり、ダンスに対するイメージが、「苦手意識」、「恥ずかしい」、「難しい」という否定的なものから、「楽しい」、「積極的に取り組む」という肯定的なものへと変わったとみられる。

表8 ダンス及びダンス指導に対する認識の変化  
(ttm4: 形容詞)

語: 形容詞	件数
楽しい	30
ない	19
恥ずかしい	11
難しい	6
いい	5
多い	5
強い	5

\*出現件数5件以上

また、授業を受ける前は、「ダンスはヒップホップのようなイメージ」、「ダンスは決められた振り付けを覚えて踊る」、「時間がかかるもの」、「ピタッ?と揃える」、「上手でないとやっていけない」と認識していると、多くの学生が述べていた。このような認識は保健体育におけるダンス領域の目標と内容とまったく一致せず、学校教育として求められるイメージとはかけ離れたものであるといえる。しかし、授業修了後は「即興など多様な表現の仕方がある」、「ダンスの幅広さを感じた」、「ダンスとは本当に自由なもの」、「ダンスには間違いはない」、「自分自身で作りに上げていくもの」というように、ダンス領域において学ばせたいイメージに変化していたことが分かった。

## 4. おわりに

本研究を通して、教員養成課程におけるT大学の「ダンス実技」授業の事例を概観するとともに、学生のダンス授業の受け止め方について検討した結果、教員養成課程におけるダンス授業のあり方としては以下のことが考えられた。

まず、ダンス経験がなく、ダンスやダンス指導に対してネガティブな認識を持っている学生が多いことから、ダンス指導法について学ばせる前に、ダンスの楽しさを経験させ、ポジティブな認識を持つように仕向けることが、今後ダンス指導に積極的に取り組む姿勢を築くと考えられる。特に、表現系ダンスの即興表現については初めて経験した学生が多く、リズム系ダンスはヒップホップのみという認識を持っている様子がうかがえた。また、ダンスに対して、決められた振り付けを覚えるもの、間違っただけいけないものという認識を持っているために、ダンスは難しい、自分ではできないという苦手意識を持っている学生が多い。このようなダンスに対する認識は、最初に述べたようにダンス領域の目標と指導内容の実践に大きな障害となるとみられる。ダンス領域において、芸術的で洗練度の高いものを目指せば、学校教育では取り上げられないものになってしまう。特定の人だけではなく、だれでもいつの間にか踊っているような、また今持っている力で踊れるような内容でダンス授業を構成することが重要である。それこそがダンスが持っている力であり、ダンスが学校教育に存在することができる大きな理由の一つである。これらのことから、教員養成課程におけるダンス授業では、学校におけるダンス教育の目標や内容について学生に正しく理解させるとともに、本事例のように実践的に体験できる授業を設けることが求められる。

最後に、本研究の事例では、ダンスの3つの主内容の中の「フォークダンス」は取り上げられていなかった。これには、10回の授業では3つの主内容すべてを取り上げる十分な時間が確保できないことが一つの原因として考えられる。しかし、学校教育においては3つの主内容をバランスよく取り上げることが望ましく<sup>6)</sup>、それを教える教員も3つの主内容をすべて経験し指導できるようになることが理想的である。教員養成課程におけるダンス授業の内容を偏りないものにするを今後の課題の一つとしてここに提起したい。

## 注 記

注1) ttm0 ファイル：解析対象データの概要

ttm1 ファイル：語のタグ別集計（出現頻度）

ttm2 ファイル：語のタグ別集計（出現件数）  
 ttm3 ファイル：語×タグのクロス集計（出現頻度）  
 ttm4 ファイル：語×タグのクロス集計（出現件数）  
 ttm5 ファイル：語×語のクロス集計（出現件数）  
 ttm6 ファイル：テキスト×語のクロス集計（出現頻度）

## 謝 辞

本研究は、平成 26 年度体育系研究プロジェクトの支援を受けたものであり、ここに深く感謝申し上げます。本研究の内容は、平成 26 年度スポーツ教育学会第 34 回大会において発表した内容をまとめたものです。

## 文 献

- 1) 細江文利（2008）新学習指導要領とこれからの体育学習－新しい学びとしてのダンスの可能性－. 女子体育 50（7・8）：8-9.
- 2) 松本富子・中村なおみ・小林峻（2013）ダンス指導法実技研修に見る現職教育の成果に関する検討. 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編 48：105-117.
- 3) 松村真宏・三浦麻子（2014）人文・社会科学のためのテキストマイニング（改訂新版）. 誠信書房, 東京.
- 4) 宮本乙女・鈴木直樹・中村恭子・中村なおみ・奥野知加・笠井里津子・津田博子・平田利矢子・高野美和子（2015）教員養成課程・教職課程におけるダンスの指導法に関するカリキュラム論的検討. 日本体育学会第 66 回大会予稿集 11 教-26-口-43.
- 5) 文部科学省（2008）中学校学習指導要領解説 保健体育編. 東山書房, 京都, 8-11.
- 6) 文部科学省（2013）学校体育実技指導資料第 9

集表現運動系及びダンス指導の手引. 東洋館出版社, 東京.

- 7) 文部科学省（2015）パンフレット「教員をめざそう」. 文部科学省ウェブサイト ([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/miryoku/1283833.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/miryoku/1283833.htm)), 参考日：2015-05-19.
- 8) 中村恭子（2009）中学校体育の男女必修化に伴うダンス授業の変容－平成 19 年度, 20 年度, 21 年度および 24 年度の年次推移から－. (社) 日本女子体育連盟学術研究 26：1-16.
- 9) 日本体育科教育学会（2015）プロジェクト研究報告日本体育科教育学会第 19 回大会「武道系・ダンス系領域」. 体育科教育学研究 31（2）：62.
- 10) 朴京眞・村田芳子（2011）日本と韓国のナショナルカリキュラムにおけるダンスの内容の変遷に関する研究－日本の学習指導要領と韓国の教育課程を対象として－. (社) 日本女子体育連盟学術研究 27：39-53.
- 11) 朴京眞・村田芳子・山崎朱音（2015）日韓の新ナショナルカリキュラムにおけるダンスに関する内容の具体化と比較検討：韓国の「体育」教科書を用いて. 体育学研究 60（2）：715-736.
- 12) 寺山由美・細川江利子（2011）表現・創作ダンスの学習における「即興表現」の指導とその捉え方－実践を続けてきた教諭に着目して. (社) 日本女子体育連盟学術研究 27：21-38.
- 13) 寺山由美・米澤麻佑子・宗宮悠子・大野ゆき（2012）ベテラン指導者の指導技術を探る：「ダンス」指導時の事例から. 筑波大学体育科学系紀要 35：81-89.
- 14) 山崎朱音・村田芳子・朴京眞（2014）創作ダンスの指導における指導言語の意味と動きを見る観点：教材「新聞紙を使った表現」を対象に. 体育学研究 59：203-226.